

## 周囲に支えられながら…

今年でねぎ栽培歴10年目を迎える、福司金治郎さん・きのさん夫妻。これまで、キャベツ部会長や青果物生産振興連絡協議会会長などを歴任し、地域農業の振興に尽力してこられました。これまで様々な作物を栽培してきた二人のねぎ栽培のきっかけは、JA営農指導員の勧めによるものでした。

「それまで30年以上みょうがを栽培していましたが、度重なる根茎腐敗病の発生に悩まされ、他作物への転換を考えていました。その際、JA営農指導員から勧めら



れ、ねぎの栽培を行うようになりました。未経験の分野だったので、研修会や講習会に足しげく通って勉強し、また部会の方々から丁寧に教えて頂きました。特にJA営農指導員にはお世話になり、疑問や相談事への即対応や定期的な巡回指導のおかげで、少しずつ栽培のコツが分かってきました。」

## こだわりの栽培

福司さんが栽培でこだわっているのが、土づくりです。ねぎ栽培を行うのと同時に緑肥の活用を始め、自然本来の養分を与えること

で土壌の活性化を図っています。また、連作障害を避けるため、ねぎ・キャベツ・大豆の圃場を定期的に戻らせています。

「緑肥は7月下旬に種まきを行い、9月上旬にすきこみを行います。はじめのうちはそれほど効果が実感できませんでしたが、年を経るごとに、植え付けた作物の生育が良くなっています。また今年は、低温と干ばつによる生育への影響が心配されましたが、地力の向上によって被害が抑えられました。」と福司さん。

また昨年は、栽培している大豆の圃場からネギアザミウマが飛来して、ねぎの一部に被害ができました。その失敗を糧に、今年は雑草処理の徹底や早め早めの防除に心掛けています。

「病害虫防除については、JA営農指導員やねぎ部会から情報が送られてくるので、それらをきちんと把握して、対策を講じています。またJAの栽培カレンダーを活用しながら、圃場に合わせた作業工程カレンダーを毎年作っており、作業の確認や今後の栽培の参考として、病害虫防除に努めています。」

## 今後の目標

福司さんが目指しているのは、高品質なねぎを安定的に出荷し、白神ブランドの強化につなげることです。

「良いものを作れば、気分も良いし、やりがいも感じます。同時に、消費者の立場で考えると、良いものでなければ選んでももらえません。そのためにも出荷規格をきちんと順守して、身体の続く限り栽培にこだわり、安定的な出荷を心掛けていきたいと思えます。」と力強く話してくれました。

